

## 群馬県玉村町およびその周辺地域におけるヌマガエルの分布

茂木 誠（群馬県立自然史博物館）

はじめに

これまでに群馬県内でのヌマガエル (*Fejervarya kawamurai*) の報告は 1999 年板倉町を最初に、館林市、明和町、邑楽町、太田市、伊勢崎市へと時の経過とともに西方地域で発見されるようになってきている。そして、2016 年 8 月 1 日にこれらの報告よりさらに西に位置する玉村町上之手においてヌマガエルが発見された。そこで、利根川流域沿いや、より西方への広がりを確認する調査を行ったので報告する。

調査結果

調査は、2016 年 8 ～ 9 月の計 5 日間に、玉村町、前橋市、高崎市、伊勢崎市、藤岡市の水田や周辺の水路などで行われた。ヌマガエル(図 1)は玉村町、前橋市、高崎市、伊勢崎市、藤岡市のいずれでも採集・確認ができた。



図1 ヌマガエル

まとめと今後の課題

今回の調査で、従来の報告より西方の地域への広がりが認められた。林・木村(2016)によると栃木県におけるヌマガエルの生息域は一年に 1 km ほど拡大することから、今回の調査で生息を確認できなかった地点や生息域周辺の調査が継続される必要がある。また、ヌマガエルの生息域拡大により、カエル類をはじめとする他の動植物へ与える影響なども調査される必要があろう。

謝辞

ヌマガエルの調査にあたり、栃木県立博物館の林光武氏、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の池澤広美氏、潮田好弘氏、財団法人日本蛇族学術研究所の山崎陽平氏には指導助言をいただきました。深く感謝申し上げます。

参考文献

- 長谷井稔(2001)：群馬県におけるヌマガエルの初見。群馬生物, 50 : 13.  
林光武・木村有紀(2003)：栃木県・群馬県におけるヌマガエルの分布。爬虫両棲類学会報, 2003(1) : 38.  
林光武・木村有紀(2016)：ヌマガエルの分布拡大と在来カエル類の生息状況。爬虫両棲類学会報, 2016 : 91-92.  
金井賢一郎(2008)：両生類・爬虫類。館林市史編さん委員会(編)。館林市史特別編第3巻「館林の自然と生きもの」。pp. 476-485, 館林市。  
森口一・林光武・木村有紀・富岡克寛・小林敏男(2004)：群馬県境町と新田町におけるヌマガエルの分布確認。爬虫両棲類学会報, 2004(2) : 119-120。  
小賀野大一(2004)：利根川流域で発見されたヌマガエル。爬虫両棲類学会報, 2004(1) : 62。  
茂木誠(2017)：群馬県玉村町およびその周辺地域におけるヌマガエルの分布。群馬県立自然史博物館研究報告(投稿中)  
山崎陽平(2016)：太田市周辺の外来種ヌマガエルの分布。ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会要旨集, 2015 : 77-78。

キーワード：ヌマガエル，群馬県，玉村町，前橋市，高崎市，伊勢崎市，藤岡市